

2019 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	中村 桂子
研究テーマ	『夢十夜』—アンドリュー・ラング著『The Book of Dreams and Ghosts』との関わりを中心に—
研究概要	十の夢を書き綴った小説は、世界でも類がないと言える。新たな視点から、『夢十夜』を捉えた。現在、「漱石と〈夢〉」、「『夢十夜』「第三夜」論」、「第一夜」、「第七夜」、「第五夜」、「中島敦と〈夢〉」と研究を進めて来ている。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>夏目漱石は、〈夢〉について、どのようなものを読んでいたのだろうか？ 先ごろ（2016 [平成 28] 年 3 月 26 日～）、県立神奈川近代文学館での、特別展「一〇〇年目に会う 夏目漱石」で、見るからに、読み込んだことが分かる、漱石の蔵書、Lang (A.) 『The Book of Dreams and Ghosts』 (Longmans, Green & Co., London, 1899.) が展示されていた。既に、イギリス留学中の明治 34 年 3 月 9 日（土）に漱石が読んでいた、同書について、初の邦訳が出版されたのを機に、探った。</p> <p>他に、寺田寅彦「団栗」（『ホトトギス』、1905 [明治 38] 年 4 月）について、発表レジュメを作成した（2019 年 6 月）ことを挙げておきたい。</p>
2. 今後の課題	<p>中村桂子「『夢十夜』試論—ラング『The Book of Dreams and Ghosts』との関わりを中心に—」を起点として、更に、論考を進めたい。漱石と同時代の心霊研究へと繋げることが出来ればと考えている。</p>